

### 牛群管理マネージメントの外部委託

ハードドクター（牛群のかかりつけ医師）として、獣医師と委託契約することにより、牛群状況について一括的な情報を把握できるようになりました。

獣医師に委託している内容は、繁殖検診、疾病治療、飼料設計などで、正確かつ効率的な飼養管理作業が可能となりました。

### 繁殖成績（平成13年9月現在）

平均空胎日数	110～118日
分娩間隔	380～390日
初回種付開始日数	分娩後65日
平均乾乳日数	60日
平均授精回数	2.5回
分娩後150日以上の未妊娠割合	10%以下

### 取り組みの成果、経営者の考え方・方針

#### 生乳生産状況の推移

年次	項目 経産牛頭数	出荷乳量 t	乳脂肪 %	SNF %	体細胞数 万個/ml	生菌数 千個/ml
平成9年	50	459.5	3.76	8.65	18.3	2.8
平成10年	60	500.7	3.82	8.63	17.5	2.1
平成11年	80	627.7	3.93	8.69	19.2	3.8
平成12年	90	742.3	3.98	8.79	19.6	5.2

#### 生乳生産量の増大による

#### 収益性の向上

平成10年9月フリーストール牛舎の導入で、規模拡大を図ったことにより、順調に生乳生産量、乳成分が向上し、所得が増加しました。

### 労働時間の短縮による時間的、精神的なゆとりの創出

フリーストール・ミルクパーラーにより、労働時間は飛躍的に短縮されました。

繋留牛舎時での労働時間は、1日最低8時間以上でしたが、飼料給餌・搾乳・糞尿処理など作業の効率化により、6時間となりました。特に搾乳は、1回の実搾乳時間が、約80頭を45分程度で終了しています。農業従事日数も、家族全員が年間30日程度の完全休暇がとれるようになりました。

創出された余暇時間で、経営主は手作りのログハウスを建設し、農村ならではのライフスタイルを充実させています。

奥さんは、介護ボランティア活動で地域貢献、息子さん（後継者）は、酪農に関する各種講習会や海外視察研修に参加する等、時間的、精神的にゆとりある暮らしで酪農を楽しんでいます。



手作りログハウス

### 今後の展望・目標

さらに充実した酪農を展開していくために、下記の事項について、準備をしています。

- ・家族の福利厚生や休日の確保、経営と生活の分離を目的に、法人化を目指す
- ・年間出荷乳量1,200～1,300 tを目標として、更なる低コスト牛舎建設による乾乳牛、初妊牛、育成牛などの未整備な管理システムの効率化を目指す
- ・自走ハーベスターをリース契約で導入し、将来的には収穫作業の受託を目指す